

【議事録】

審議会等名 令和5年度 第3回つくばみらい市男女共同参画推進委員会
●日 時：令和5年10月17日（火）午後2時～午後3時30分 ●場 所：つくばみらい市役所伊奈庁舎2階 会議室1 ●出席委員：高木玲子委員長、間宮正孝副委員長、川上佐知子委員、渋谷透委員、太田真由美委員 高田新二委員、高野幸江委員、人見実俊委員、村上昇委員 ●欠席委員：根本志枝委員 ●事務局：地域推進課 石引課長、柴山課長補佐、飯村主査、小倉主事 AN計画工房 阿久津氏 ●傍聴人：なし
●次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 市男女共同参画計画に基づく令和4年度事業実施状況に対する意見書について (2) 市男女共同参画推進月間における活動について (3) 市男女共同参画計画基本計画（案）について 4 その他 5 閉会
1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 ・委員長が議長となり以下の議事進行を行った。 (1) 市男女共同参画計画に基づく令和4年度事業実施状況に対する意見書について ・事務局より、同日、午後1時30分より、副委員長同席のもと、委員長から副市長へ意見書を手渡した旨、報告を行った。 【質疑・意見等】 なし (2) 市男女共同参画推進月間における活動について ・事務局より、資料2に基づき説明を行った。 【質疑・意見等】 なし (3) 市男女共同参画計画基本計画（案）について ・議長が委員に審議を求めたところ、次の意見があった。 【質疑・意見等】 ・委員：32 ページの一番下につくばみらい市男女共同参画推進庁内検討委員会（副市長・部長級職員）とあるが、男女比は分かるか。 ・事務局：現在は、全員男性で構成されている。 ・委員：これは少し考えていただきたい。様々な政策、決定事項に女性が、と書いてありながら、女

性が0人というのは、いかななものか。さらにもう一つ、ワーキングチームがあるが、具体的に何名ぐらいを想定しているのか。

- 地域推進課長：現在、ワーキングチームのメンバーは18名。そのうち女性は10名となっている。
- 委員：ワーキングチームに、教育委員会と社会福祉協議会が入っているか。
- 地域推進課長：学校総務課、教育指導課、生涯学習課、社会福祉課が入っているが、社会福祉協議会は入っていない。
- 委員：社会福祉協議会の事業と男女共同参画の事業は重なっているところがある。以前は、社会福祉協議会の事業も報告されていた。今でも事業内容はそれほど変わっていないのではないと思う。組織の問題があるので悩ましいところだが検討していただきたい。
- 委員長：庁内の検討委員会に女性がいないのは、今まで上級の職員はほとんど男性が占めてきたということがある。現在、教育長は女性であり、委員をお願いしてもいいのではないか。社会福祉協議会も、高齢者やひとり親など困っている方たちの相談などを行っている部署なので、ぜひこの意見を検討し、何とか入れていただきたい。
- 委員：中学生向けの出前講座を実施するということだが、今年のノーベル平和賞を受賞された方はご存じか。現在収監されている、イランの人権活動家で、男女共同参画を訴える方が受賞した。中学生の出前講座の際に、そういった世界の動きのようなことを話してもいいのではないか。また、4ページで、アイスランドのジェンダーギャップ指数が世界一だが、どのようなところが素晴らしいのか、国の取り組みを参考にできるといい。5ページ「国の動向」に、「男女共同参画に関する国際的な協調及び貢献」という第11分野がある。これは、茨城県の計画では削られており、従って国の計画に比べて1点少ない。27ページを見ると、外国人の人口が増えており、424人となっていると書いてある。全体の何%かはわからないが、性的マイノリティの方よりも外国人の方が多いのではないかと考えている。この外国人の方との交流の方法や、外国人の方のノウハウを生かしたような市民への還元など、何か考えているのか。
- 委員：併せて、前期では国際が大きなテーマとしてあった。基本目標Ⅲに、「国際社会への参画」という項目があったのだが、今回はなくなった。
- AN計画：外国人については、「多様性を認め合う社会の実現」で、「多文化の理解と交流促進」を入れている。前回とトーンは違うが消したわけではなく、実施計画には課題として出てくる形になっている。今回は、誰もが安心して自分らしく暮らせるというところに包括した形になっている。
- 地域推進課長：国際交流や多文化共生については、今年度、秘書広報課から地域推進課に担当替えがあった。市民活動まちづくりセンターが、国際交流・多文化共生を担当しているが、市では、国際交流や多文化共生がほぼ行われていなかったことが反省点として挙げられている。市内でも、外国人が毎年増えてきているのが現状である。お互いに尊重しながら、市内で生活をしていくことを、この5年間でしっかりと作り上げていく必要があり、ニーズ調査などの準備を進めている。近隣自治体では国際交流協会もあるが、協会を作ることが目的になってしまわないように、足固めをして、道筋を立て、その道筋の中で国際交流協会が必要だということであれば設立して、しっかりと積み上げていく必要があるという話をしている。そういった観点から、男女共同参画を見ると、SDGsのゴール5ということでジェンダー平等を実現したい。誰もが個々の人権、自分らしく生きていく社会を作っていくと考えた時に、市で今必要なものは、市内における多文化共生をいかに醸成していくかということではないかと考え、今回少し表現を変えさ

せていただいた。

- ・委員長：先ほど太田委員から出前講座の件で話があったが、委員で時間に都合がつく方に、1回でも同席していただくと、今の中学1年生にどのようなことをやっているか、具体的にわかると思う。講座も少しずつ内容が変わってきているが、ノーベル平和賞に男女共同参画に関係がある方が入っているなど、新たな情報を追加してもいいのではないか。最近新聞もテレビも見ず、スマホだけという若者も多い。ノーベル平和賞も興味のある人は見ているが、興味がなければ知らない子どもたちがほとんど。ぜひお願いしたい。私事だが、60歳の時に、県の海外視察でノルウェーに行った。15年以上前だが、男女共同参画というよりも、育児などを夫婦で協力して行っているのを街中や、色々な施設で見してきた。こんなに違うということをとっても感じた。ここだけで暮らしていると情報が入ってこないが、国際交流が地域推進課に来たということであれば、何か発信していただきたい。市民の人たちに情報を流すことで、少しずつ目の向け方が違うのではないかと思う。
- ・委員：25ページの2行目。「子育て期と重なる20歳代後半から30歳代で」と書いてあるが、40代も含まれるのではないか。またその下の行で、「ワーク・ライフ・バランスという言葉が市民や事業所に定着してきているものの、働く世代、特に30歳代や40歳代では、男性の労働時間は長く、女性の家事負担も大きくなっており」とある。この年代は男性のみならず、女性も労働時間が長くなっている。男性ばかりではなく、女性もこの時期は忙しい。もっとわかりやすい書き方にしていきたい。
- ・委員長：ちょっとした言葉の使い方だが、重要なところである。今まではそのような既成概念があった。男性は残業で夜遅いという既成概念から出てきた言葉になってしまうとまずい。今の時代は女性でも夜遅くまで働いている人もいる。ちょっとした言葉の使い方だが、考慮していただきたい。
- ・委員：22、23ページの高校生のインタビューで、「父親等が家事を手伝っている」という表現になっている。インタビュー結果の概要にも、「父親等が家事を手伝っている」という表現があるのだが、我々の目指すものとは少し違うのではないか。「男が家事を手伝う」ということは、解消していかなければならない。
- ・AN計画：この表現は、インタビューさせていたでいる時に出てきた言葉。そこまでの配慮が足りず申し訳ない。まとめる際に訂正させていただき、「家事を一緒に行っている」という表現にさせていただく。実際にはお父さん、男の人が家事をしているか、というお話をさせていただいたが、基本的に男性が家事をしている家庭の高校生と、していない家庭の高校生では感覚がちよっと違う。男の人が家事をすることに違和感があると話をした高校生がいたため、家庭事情が反映するのではないかということで使わせていただいたが、表現が適切ではなかったと思う。
- ・委員：出前講座を見ていると、まさにその問題が最初に引っかかってくる。出前講座をやっていると子どもたちは変わるが、家庭生活における夫婦の役割分担意識について、昔と全く変わっていない。ずっと長く見ている先生が、あまり変わらないと言っていた。そういうことも含め、シビアに見てかないいけない。
- ・事務局：出前講座の実施後アンケートを先生にとった際の感想に、男性が家事をしていることに感心する生徒を見て、10年前の生徒も同じようなリアクションをとっていたため、10年間で中学生の家庭生活における役割分担意識はそこまでの変化がないと思った、という感想が書いてあ

った。

- ・委員：中学生が変わっていないのではなく、家庭が変わっていない。出前講座に行くと中学生の雰囲気だけでも結構面白い。
- ・委員長：男女共同参画で、大事なこと、基礎になることは、項目より、この「父親が家事を手伝っている」という状況が問題なのではないかと思う。手伝っているのではなく、自発的に自分でやるようにならないといけない。押し付けられてやっているようなイメージがまだまだ日本の家庭の中にはあるので、先ほど話があったような言葉の使い方になるのではないかと思う。
- ・委員：男性が家事をするという言い方について、人生 100 年時代で、家事ができないと、生き残るのに辛いというような、自分のために家事をした方がいいというような見せ方、逆転の発想で示した方がいいのではないか。
- ・委員長：出前講座の内容を全部変えるのは難しいと思う。いろんな要素があって決めなくてはいけない。
- ・委員：わかりやすいようにするのは、とてもいいと思う。
- ・委員：出前講座は、2009 年からやっているので、つくばみらい市出身の 27 歳までの若者は、1 回は男女共同参画社会について考えている。市の財産なので続けていただきたい。
- ・委員長：出前講座は、最初の頃は新聞記事にもなっていた。
- ・委員：8 ページで、「つくばみらい市の単独世帯の割合が 3 割」と書いてあるが、これはひとり暮らしの高齢者なのか、単身赴任のような若い世代なのか。
- ・事務局：1 人で住んでいる方ということ。
- ・委員：高齢の方が増えているということか。
- ・事務局：そういった方も、若い方もいる。
- ・委員：新しく単独で入ってきているのか、ずっと住んでいるということなのか。
- ・地域推進課長：両方入っている。こちらは国勢調査のデータで、単独世帯の方の年齢についてのデータは持っていない。近年の市の人口動向からすると、みらい平周辺においては、若い方の単独単身が増えてきていると感じているが、一方で、もともとあった地域等では、高齢単独世帯も増えてきていると感じている。両方の要因があるということでご理解いただきたい。
- ・委員：11 ページの 7 番目、「新規就農女性者数が 0」次年度以降どのように挽回していくのか。見せ方をチェンジして魅力的に PR していくのか。
- ・AN 計画：後期計画では入れるか検討している。指標を変える予定で、0 が 1 人になっても、ということがある。農業だけではないが、今回は創業セミナーの参加者数という、違う方向性を考えている。次回になってしまいが、主要課題に対してどのような施策を行っていった方がいいかをお示しする。実際の目標として掲げているものは、これで合っているかをチェックし、違っているものは目標の取り方も変えさせていただきたい。次回以降に各委員に確認、ご検討いただく形になると思う。
- ・委員：市の総合計画に「みどり豊かなまち」とある。緑に従事する人に、新しく女性が入っていく、となるとこの項目ではないかと思う。
- ・地域推進課長：こちらは産業経済課が所管している事業である。現在、農業者の後継者問題は、当市に限らず全国的な課題で、農業の ICT 化にも取り組んでいる。これまでの力仕事を機械化することで、色々な方が参入しやすい、農業に従事しやすいように取り組んでいる。だが農業を始めるにあたり、農機具が高いということがある。こちらについては、3 年ぐらい前から市内に

あるクボタと農機具のレンタルを行い、家庭菜園されている方も含め、市内の女性の方が講習を受け、農機具をレンタルするということで進めている。ただ、農業者の後継者問題がある中で、女性にターゲットを絞って、新規就農というのはかなり高いハードルとなる。成果を何とかあげていくということで5、6年前は、K P Iとしたと思うが、実際は後継者問題も解決しない状況の中、女性に特化した担い手の達成がなかなか難しかったというのは、外から見て感じている。

- ・委員：農業をやっている者からすると、新規で入られる方はイメージ先行だが、実際にやると楽なことはほとんどない。「みどりと共生する」と言うが、実際やってみると理想と現実がある。周りから新規の方の話を聞くと、何の知識もなく市役所や農業関係に相談に行き、やりたいという話をして、実際は難しいという方が結構いるという話は、聞いている。その結果0人とか1人ということなのではないかと思う。
- ・委員長：新規就農は男性でも大変。後継者問題だけでなく、新規に就農することは男性も非常に難しいと思う。先ほど話があったように現実的ではない。畑をやっている人が草取りだけで毎日終わってしまうという大変さはよく聞く。農業に対して女性男性関係なく、やりたい人が出てくるのを待つしかない。
- ・AN計画：農業に関するものを全部削ってしまうということではなく、今回目標をある程度絞ろうという話をしている。最初の頃に話し合ったのだが、事業が全体的に多い。事業を絞るという作業をもう始めている。次回以降にお示しできると思うが、目標を少し絞っていく。農業に関しては、女性も働きやすいように、家族の中でも女性の労働をちゃんと認められるようにしていくことを目的として、「家族経営協定実施数」を引き続き推進していこうと考えている。
- ・委員長：他にあるか。
- ・委員：重点目標の1と2が新しく入ってくることは大変いいことだが、実際の事業で、民間企業にどれだけ踏み込めるのか、相当な覚悟が必要である。これまでは、アンケートやパンフレットを配ってきたと思うが、さらに一歩も二歩も踏み込んでいくというような事業計画を現在立てつつあるのか。それとも、そうは言ってもやることはこれまでとあまり変わらない、ということなのか。よく民間企業のところまで重点目標としてあげたなというのは私の正直な印象である。今までは市役所関係や公的機関などで終わっていたような気がする。地域推進課だけではなく、民間企業に関係する部署がそこまで覚悟を持ってやるのか。これからの話だと思うが今計画中なのか。
- ・AN計画：こちらの一方的な思いがあるかもしれないが、アンケートから課題となっている部分である。果たして行政がどこまで踏み込めるのか、確かにかなり難しい。しかし、情報提供だけでもできることはあるのではないかと考えている。他市町村の例だが、法改正などがあり、会議に出ている方でも知らないことがある。パンフレットなど配布用のものを作っても、知らなかったという話もある。そういったところをもう少ししっかりと連携してもいいのではないか。実際アンケートを集計しても、こちらが意図することは、伝わっていないかもしれないと思う。このアンケートに何か意味があるのかと言う方もたくさんいる。それを伝えていくこともこれからは必要ではないかという意味で、重点とさせていただいた。
- ・委員：計画ができて、さらにそれを実現するための事業展開。これから大手企業も入ってくる。その辺も参考になれば。大分違うのではないか。育休の取り扱いも大手企業は1年有給で育休をとり、2年目は無給でも育休が取れる。男性も育休が取れるのは、一部上場企業の上の方。だん

だんそのようになりつつある。事業展開で期待をさせていただきたい。行政が民間企業に働きかけるのはなかなか難しいと思う。

- ・委員長：特に育休の取り方や男女共同参画については5、6年前から比べると随分追い風になっている。
- ・AN計画：前はそこまでではなかったが、最近は注目度が高い。女性の活躍推進を行っていることがメリットになると答えている企業がとても多かった。そのように感じるところが増えてきていると思う。
- ・事務局：先ほど太田委員から意見いただいた、資料の25ページの労働については、20代、30代に40代も含まれるのではということだが、9ページに、女性の年齢別労働力率というグラフがある。今まではMという形で、20代、30代にかけて下降していたものが、現在は上がってきていることを表現しようと思い、このような文章になっている。また、その下の「男性の労働時間が長く」と書いてあるところだが、30歳代や40歳代の前に「特に」というのが入っており、特に男性の労働時間が長いというのが、意識調査の平日の仕事時間の設問に載っている。
また、男性の30代、40代と女性の30代、40代を比べると、平日の仕事時間は大体3時間から4時間ぐらい、男性と女性で差がある。そこを表して、「特に30歳代や40歳代では、男性の労働時間は長く」となっている。男性の前に「特に」を入れて、女性ももちろん長くなっているが、特に男性が長いということを書かせていただければと思うが、いかがか。
- ・委員長：事務局としてはデータから拾って、こういう表現をしたが、感覚的には、今は女性も随分働いている。そのあたりのとらえ方が違う。データに基づいているので、今回は良いとするか、それとも感覚的なところで、変えて欲しいかというところ。
- ・地域推進課長：男性の仕事の割合が多いから、家事の負担が女性にどうしても行ってしまうということが伝えたいところ。皆様のお知恵を拝借できればありがたい。
- ・委員長：年齢のところは40歳代を入れてもあまり変わらないと思うが、その下の男性の労働時間が長いというところはどうか。
- ・委員：今の話からすると現状のままでよいと思う。
- ・委員：30ページの重点課題2、市内に勤務している男性は全体の労働人口の何%なのか。7ページの男性の年齢別人口を見た時に、中学生以下は出前授業で意識改革できるが、20歳以上の男性のうち、何割が市内勤務か。市外に勤めているがつくばみらい市に住んでいる男性にどのようにして男女共同参画推進できるのか。ティッシュ配りや啓蒙活動を行うなどだと思うが、ほとんど届いていない。後期計画で、前期とどう変えていくのか。具体的には私の知り合いの旦那さんはお湯しか沸かせない。
- ・AN計画：家事シェアの講座などもいいのではないかと思うが、どれだけ関心を持っていただけるか。男性でも知りたいという方に向けて実際に行っているところもあり、好評だと聞いている。具体的に事業の検討をしているが、今までの事業がベースになっており、新規でどのようなものを入れていったらいいかまだアイデア不足であり、皆さんからご意見をいただきたい。後期計画なので、どうしても前期がベースになっている。5年ですぐいぶん変わったので、新たな視点も必要と考えている。
- ・委員長：重点課題2、雇用や職業の場における男女共同参画の推進は、地元企業には働きかけやすいが、市民で首都圏に勤めている人が多く、膨大な数の企業があるので、実際に働きかけるのは難しい。おそらくこの受け取り方は、地元の企業だと思っていた。

- ・ AN計画：地元の企業がベースになる。インタビューをして感じたことは、都内で働いている方が非常に多く、テレワークなどを使い、旦那さんと協力しながらうまく子育てしている方が結構いらっしやった。そういった視点も大事で、そのような方々を応援するような、サポート体制がこれから重要になってくるのではないかと。
- ・ 委員：26 ページで、「また、多くの市民が、家庭生活や地域活動において」とあるが、家庭生活と地域活動を同列にしているのか。地域活動が今、崩壊しつつある。昔からの自治会は名前だけで実態がなく、新しいところは自治会をつくるのが大変。そのような課題と、家庭生活での課題は若干ずれる。並列にさらっと書いてあるが、地域活動は世帯主が男ならば男という行政的な発想。昔の区長、今の行政協力員も、基本的に世帯主ベースなので、女性の名前も出てこない。行政協力員は少なくとも名前は男の世界。メンバーはおそらく9割が男性。そういうことも含めて家庭生活と地域活動が同列なのは、ずれを感じる。それよりも地域活動がなくなりつつあることが深刻。若い方は男女共同でやりたいが、地域活動をあまりやりたくない。地域活動に若い人は出てこず、本当に困っている。
- ・ 地域推進課長：家庭生活や地域活動が並列の書きぶりではあるが、市民活動や習慣、しきたりのようなものを地域活動と表現をさせていただいている。
- ・ AN計画：確かにここだけを読むと違和感があるかもしれない。アンケートの結果に依ったものだが、地域活動、自治会活動が下火になっているのは確か。再度表現を調整させていただきたい。
- ・ 委員：私はこの地域活動をスポーツ少年団なども含むと捉えたので、あまり違和感はないが、話を聞いて自治会の祭りなども地域活動で、範囲が広いことを実感した。家庭生活以外の活動を全部含めて地域活動と捉えると、これはこれでいいのではないかと思いつつ、その中にも様々なものがあり、男女が同じように参加していくようにするには、まだまだ抵抗があるのではないかと感じた。また、市外に働きに出ている男性に、どのように家庭での役割分担を意識付けするかということだが、出産が一つのきっかけになるのではないかと。子育てに関しては、「イクメン」などの言葉もあり、男性も子育てに参加しなさいという話になるが、子育てだけでいいのかというと、ミルクを作っておむつを変えて、その離乳食も作れるようにならなければいけない。そうすると家庭での役割をお父さんも持つことになる。子育てだけに限らず、家庭での役割分担まで踏み込んで話ができれば、一つのきっかけにはなるのではないかと。
- ・ 委員長：つくばみらい市は、二極化している。都内に働きに出る人もいれば、農業で長くやっている人もいる。みらい平など新しく入ってくる人たちは自治会を作りたくない。高齢者の多いエリアでは高齢化しており、自治会の役員や手伝いは80歳以上過ぎたらやらなくていいという決まりを作ったりしている。社会福祉協議会の赤い羽根募金などをやっているが、古くからある自治会は自治会費から自動的に300円ずつ納めるが、新しく入ったみらい平の方などは自治会がなく集金をしないので、募金もどんどん目減りしていく。集金できる所とできない所があり、この市は何かにつけ二極化していると思う。

4 その他

- ・ 第4回の委員会開催日について報告を行った。
第4回委員会 令和5年11月8日（水）午後2時から

9 閉会（午後3時30分）

●配布資料

- ・ 令和5年度第3回 つくばみらい市男女共同参画推進委員会 会議次第

